



心を耕させ、力のある芽を出させよう

日本では熱中症警報が毎日のように発令されて酷暑の夏のようにですが、ここクライストチャーチは一年で最も寒さの厳しい時季となりました。クライストチャーチ(NZ)で初めての冬を迎えた私にとっては、朝晩の寒さは体にこたえますが、雪かきなどをしなくていいことにほっとしています。でも…やはり、暖かい春が待ち遠しいです。

早く暖かい春・楽しい春がやってくることを願っていますが、実は、今の時季は楽しい春を迎えるための大切な時でもあると思っています。2学期に入った補習校では、クラスもまとまり、楽しそうに、そして真剣に学習に取り組んでいる子どもたちの姿が見られます。教員は1学期の自分の指導がどうだったかを振り返り、学年のスタートとなる1学期の学習内容が確実に身についたかどうかを確認しながら、2学期の学習を進めています。

この時期(日本での冬の話ですが…)になると、全校朝会のときに、子どもたちにこんな話をしたことを思い出します。

「木々たちは実をならせたあと、秋の終わりには根と幹と枝だけになって厳しい寒さに耐える準備をします。冷たい雪や凍るような北風にも負けず、倒れたり折れたりしないしなやかな強い姿で立ち続けます。木々たちが立ち続けることができるのは、今まで自分で張ってきた強い根があるからこそです。枝の先まで栄養を送っているからです。ただただ、寒さに耐えているだけのように見える木々たちですが、その中では新しい芽を出すための準備にかかっているのです。」と…。



子どもたちは、生来、何でも自分の力でやってみたいと思っています。自分でやれたときや自分で考え出したときは、ことのほか嬉しそうな表情を見せます。補習校に赴任できた昨年度、休憩時間に子どもたちと一緒に竹馬の練習をしました。その時、難しい竹馬に乗れるようになり、満足感や達成感で満面の笑みを浮かべている瞬間に出会いました。

これは、日々の生活や学習にもつながることだと思います。周りの大人が先回りの準備をしたり、面倒なことを本人にやらせなくても済むように手や口を出したりすれば、子どもはぬくぬくと楽しく過ごすことができるでしょう。しかし、これでは新しい芽を出すための大切な心の耕しはできないこととなります。子どもたちに、自分の心を耕させ、苦手なことや面倒なことにも自分で取り組むようにさせたいものです。そのところを、周りの大人がしっかり支え励ましていけば、自分の力で乗り越えられたという喜びと自信をもたせることができます。このような体験の積み重ねが、しなやかな強い心の育成へとつながっていきます。そして、力のある芽を出させることができるとしています。これからも、心を耕させる教育を大切に進めてまいります。

2学期も補習校の教育活動に、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

2学期始業式(児童生徒会からの連絡)

2学期始業式の児童生徒会からの連絡では、前回同様、発表内容を担当者が考え全校の前で堂々と発表してくれました。内容・態度も素晴らしかったです。

